

開会（13：00）

- 松島和久委員長 それでは、定刻となりましたので始めさせていただきます。  
皆様、お疲れさまです。ただいまから総務文教常任委員会を開会いたします。  
それでは、これより議案の審査を行います。  
本委員会に付託されました案件は全部で2件であります。  
審査順序は、お手元に配付の審査順表のとおり、総務部、焼津市立総合病院の順で審査したいと思いますが、これに御異議はございませんか。  
（「異議なし」と呼ぶ者あり）
- 松島和久委員長 御異議なしと認めます。よって、お手元の審査順表のとおり審査することにいたします。  
最初に、総務部所管の議案の審査を行います。  
認第12号「令和3年度焼津市土地取得事業特別会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。  
それでは、認第12号に対する質疑に入ります。  
質疑・意見のある分科会員は御発言願います。
- 須崎 章副委員長 それでは、私のほうから歳入のほうですね。302ページ、3ページ、1款2項1目不動産売払い収入についてです。この説明の欄では、土地の売払い収入が1,729万6,846円となっていて、説明の中では、土地会計の保有する売払いと一般会計からの払戻しの2件があったという説明がありました。まず、土地会計の保有する売払いの件数は何件で幾らなのか、お聞きします。
- 大石一宏管財課長 土地の売払い収入、合計1,729万6,846円に対しまして、大住地区の道路残地、そちらのほう1件、1,659万7,000円と、防災用の避難する山でこすぎ山のほうを特別会計から一般会計へ買戻しをしました。そちらのほう69万9,846円で、締めて先ほどの1,729万6,000円というような内訳となっています。  
以上です。
- 須崎 章副委員長 ありがとうございます。  
払戻しの金額というのは、買ったときと同じような金額になったんでしょうか。
- 大石一宏管財課長 同じ金額となっております。  
以上です。
- 須崎 章副委員長 分かりました。了解です。
- 松島和久委員長 ほかにはいいですか。
- 岡田光正委員 関連です。  
同じ内容で、基本的にこすぎ山のやつはこの間別のあれでも聞いたものだから金額は分かっているんだけど、大住地区の道路というのは、これは金額的に査定というか、これはどういうふうにされて数字を出したのか教えてください。
- 大石一宏管財課長 こちらのほうは一応不動産鑑定、専門の方に鑑定していただきまして、最近の売買の実施状況、そういうのを全て調査した上でこの金額をはじいております。

以上です。

- 岡田光正委員 当初より今はどう、上がっているの、下がっているの。当初の資産状況。
- 大石一宏管財課長 はっきりとした差はちょっと申すことは、今、現時点で資料がないものですから分かりませんが、少し下がっているというような状況です。

以上です。

- 岡田光正委員 分かりました。
- 深田ゆり子委員 同じく303ページの上の土地貸付け収入338万4,520円ですが、これは前にも委員が聞いているかと思うんですけども、何件でどの辺の土地なのか。そして、貸付けの上限とか、あと期間とか、それもばらばらだと思ってしまうんですけども、何かそういうものが決まっているのか、お聞きします。
- 大石一宏管財課長 土地の貸付けにつきましては、一応件数としましては、昨年1年間で13件、主にアトレ焼津管理組合のほうに貸付けているのがメインの収入となっております。

それ以外のものにつきましては短期的、いわゆるそばの事業所さんが何か事業をやるとか、そういったときに短期的に一時的にお貸しするとか、そういった場合もございます。

以上です。

- 深田ゆり子委員 基準。
- 大石一宏管財課長 基準というのは、最長で基本的には1年、毎年更新で最長1年。最短というのは、特に決めはございません。

以上であります。

- 深田ゆり子委員 先ほど、アトレ焼津が大きなもの、あとはほかの小さなものと思ってしまうんですけども、金額的にはどのぐらいアトレのほうにはなって、そのほかのほうは大体幾らぐらいになるんでしょうか。それから、毎年更新というところがほかに、12件のうちのどのぐらいあるのか。
- 大石一宏管財課長 メインのアトレ焼津管理組合のほうにつきましては、昨年1年間で129万7,920円というのが一番メインのものでございます。毎年更新といいますか、変わるというのは、土地の評価を基準に賃貸料を定めているものですから、そちらの評価を確認した上で再度賃貸料というのは毎年計算しているというのか、更新しております。

以上です。

- 深田ゆり子委員 土地の評価が変わって金額も変わる、毎年変わるということなんですが、大体、地域のその土地が必要なので1年更新で貸しているというところも多いんでしょうか、主な貸し出す用途というのは。
- 大石一宏管財課長 主に貸出ししている内容ですけども、自分の車を駐車する駐車場1台とかというような貸付け内容が主となっておりますので、毎年このような方は1年更新ということで、毎年評価を確認しながら更新を進めているというような状況です。

以上であります。

- 深田ゆり子委員 了解。
- 松島和久委員長 ほかにございますでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○松島和久委員長 ほかにないようですので、質疑・意見を打ち切ります。

討論はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○松島和久委員長 討論を打ち切ります。

これより採決いたします。

認第12号は、これを認定することに賛成の委員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○松島和久委員長 挙手総員であります。よって、認第12号は、認定すべきもの決定いたしました。

以上で、総務部所管の議案の審査は終わりました。

当局の皆さん、御苦労さまでした。当局の入れ替わりがありますので、しばらくお待ちください。

休憩(13:09~13:12)

○松島和久委員長 次に、焼津市立総合病院所管の議案の審査を行います。

認第20号「令和3年度焼津市病院事業会計決算認定について」を議題といたします。

それでは、認第20号に対する質疑に入ります。

質疑・意見のある分科会員は発言をお願いいたします。

○内田修司委員 決算書の20ページです。

20ページに材料費の明細ということで一覧ありますが、その中で、まず、上から2行目、注射薬品について。令和3年度、令和2年度の比較もあって、前年度の比、プラス24.8%、2億7,900万円の増となっているんですが、この増の理由、金額的にも多くなっているこの理由についてお聞かせください。

○鈴木大紀事務部次長 今、薬品費が、特に注射薬品が、こちらのほうで申しますと約3億円弱、注射薬品だけで増えております。そして、合計でも3億3,000万円以上増えているという御指摘だと思います。

まさにそのとおりです。昨年、年度途中で当院に高額薬剤、特に抗がん剤ですとかC型肝炎の治療薬、特に注射に関しましては、外来で抗がん剤治療を皆さんに提供させていただいております。その薬品がこのように金額として乗せてございます。

ただ、これは外来収益に反映しておりまして、外来収益が6億4,000万円ぐらい増えておりますので、数字的にはそういった形になります。詳細につきましては薬剤科長からお話があると思います。

失礼します。

○林 豊薬剤科長 令和2年度と令和3年度で注射薬を私もちょっと気になったので比較しました。トップはソリリスというお薬で、視神経脊髄炎スペクトラム障害という珍しい疾患に対しての高額な医薬品が出ていまして、そちらが年間で1億円。令和2年にはなかった薬品でした。そのほかは、抗がん剤で、いわゆる免疫チェックポイント阻害剤ですね。商品名でいうとオブジーゴ、それに類する薬が三、四種類出ておりますが、そちらが上位を占めて、令和2年度と比べて量が増えて1億5,000万円程度の金額になっ

ております。そのほかの抗がん剤もやはり伸びておりますので、そういった差が出ているのかと思われまます。

以上です。

○内田修司委員 分かりました。

これ、材料費ということで、それが診療費のほうにはね返って、直接は病院の会計のマイナスにはなっていないということですかね。それは理解いたしました。

引き続きもう一点。同じく材料費の表で、その下ですね。試験薬品です。これも前年度に比べて22%の増、金額的には3,600万円強ですけど、この増加理由について、同様なんですけど、検査自体が増えているのか、やっぱり高額な試薬が必要な検査が増えているのか、そこら辺を教えてください。

○内藤 章診療技術部長 試験薬品についてお話をさせていただきます。

この3,600万円につきましては、ほとんどが新型コロナウイルス感染症の抗原定量検査、これの費用でございます。非常に今まではこの検査、なかった。令和2年の途中からということで、非常にこれは高額でございまして、1件当たり大体3,000円程度の試薬代がかかっております。これが毎日100件前後検査を実施しておりますので、その費用でこの金額になっている。検査のその他の項目につきましては、ほぼ昨年どおりということでございます。これにつきましても、先ほどと同じように、全て保険のほうへ請求をさせていただいておりますので、赤になっているということはございません。

以上です。

○内田修司委員 了解です。

○岡田光正委員 岡田でございます。

それでは、まず先にちっちゃいほうから質疑するんですけども、バランスシート、事業貸借対照表のほうを見させていただきますと。

5ページでございます。この中でちょっと気になった点だけ質疑させていただきます。

この未収金、こちらなんですけれども、過年度未収金が例年になくちょっと多いなという感じがしたものですから、この過年度未収金の内訳、どんなあんばいなのか教えてくださいいただけますか。

○寺尾貴裕医事課長 過年度未収金の関係なんですけれども、令和3年度の年度末の過年度未収金3,900万円ということなんですけれども、例年から比べますと、前年度が4,300万円ほど、令和2年度が4,300万円ほどですので、年々徐々には減っているような状況でございますけれども、過年度未収金は、基本的に内容的には患者さんからの要は診察料という形になりますので、当然のごとく、今後減らしていかなくちゃならないというふうには思っていますけれども、年々減っているという状況ではございます。

○岡田光正委員 正直、過年度未収金、これはやむを得ない部分もあるかもしれませんが、これからむしろ増えるほうが、増えていくんじゃないかなという不安がありますので、その辺は十分に確認をしていただきたいと思います。

続きまして、先ほど材料費、これについては増額がかなりありました。それに対して、逆に給与費と経費がかなり下がっておりますね。特に給与費は、これは人間の数の問題だろうと思うんですけども、医師の数だとかそういった関係なのか、それとも何か理由があるのか。経費についても1億9,557万4,000円、1年間。19ページの事業費用の前

年度比較、こちらを見ながら確認させていただきますと、給与費が、令和3年度の予算が79億8,518万5,000円に対して78億2,451万4,000円。これで1億6,067万1,000円の予算対比マイナスと。

それから、経費につきまして……。

○深田ゆり子委員 令和2年度、令和3年度。

○岡田光正委員 違う、年度比較じゃなくて、ごめんなさい、予算比較。

経費につきまして、予算が18億7,781万3,000円に対してこの決算が16億8,223万9,000円ということで、1億9,557万4,000円。確かにさっき材料費につきましては、予算対比、かなり増えている。これは高額のあれで、途中で追加予算が出ているのは分かるんですけども、給与費については、予算に対してこれだけ減った理由。それから、経費に関しては、どういった努力でこれだけ減ったのか、あるいは何か特別な理由があるのか。その辺を教えてください。

○鈴木 彰病院総務課長 人件費のところでございますけれども、1つは人事院勧告で、ボーナスの部分が少し減額された部分が5,000万円弱ぐらいあるかと思います。そのほか、予算に対して実績が少なかったというのが、病院に非常に医局の人事で医師の異動が多いものですから、予算のときにその辺りを想定するのが少し難しいところもございます、そういったところで少し予算に対して実績が少なかった。あるいは時間外手当なんかも減っているんですね。新型コロナウイルス感染症で病床利用率なんかが少し減ってきております。そういう形で時間外手当なんかも減ってきているのが1つの理由かと思います。以上でございます。

○鈴木大紀事務部次長 もう一方で経費のほうですけれども、経費の部分で特に委託料が増えています。この委託料というのは、新型コロナウイルス感染症検査でPCR検査並びに抗原定量検査等、検査業務委託がどうしても増えたということで、このところが経費が増えているという実情がございます。

○岡田光正委員 予算よりは減ったかという。

○鈴木大紀事務部次長 ほかの経費は、やっぱり今総務課長がお話ししたように、いろんな業務自体の全体的な量が、病床利用率の関係ですとか、減っておりますので、経費全体でいきますと多寡が、凸凹があるんですけれども、勘定科目で減らしている分が反映していると思います。

○岡田光正委員 それで、病床利用率の問題ですけど、令和2年、令和3年、大幅に減少している。そんな中で、令和3年、少し戻ってきたんですね。これについて、現状、令和3年度、お金が入ったのは、空床の。空床補償費が出ただけけれども、今後、やはり病床の使用率、これは新型コロナウイルス感染症の影響でどうしても少ないのかなと感じます。令和4年度、現状を考えますと、今後どのような状況になっていくのか予想は立ちますか。それだけ教えてください。

○松島和久委員長 病床使用率が出ているところって業務のところの12ページ、9ページ。病床使用率、9ページの上の四角の中の3段目、病床使用率ですね。

○寺田浩己事務部長 病床使用率につきましては、決算書の9ページにあるとおり、平成29年から令和3年度までの記載のとおりです。だんだんと下がっているというような状況ですが、令和2年、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の関係で、1つの病床

を新型コロナウイルス感染症の病床にしたというところで稼働率が下がっております。今までかかれた方も新型コロナウイルス感染症が怖くて病院に来ないというような事例が、うちの病院だけじゃなくて全国的にあったかと思います。そういうふうな形で、本当は入院の必要があるんだけど我慢して自宅でいらしたというような患者さんもいらっしゃるんだと思います。

今後の推移なんですが、令和4年度につきまして、今どんな状況かといいますと、8月までのデータは出ておるわけなんですが、やはり70%台まで行くか行かないかというような数字を今推移しているというような状況になっております。

以上です。

○岡田光正委員 一応内容的には分かりますので。今、空き病床の補償が出ている間はいいんですけど、その後のことを考えますと、いろいろ状況を考えていく上で、ぜひ次の予算のときにうまい具合にやっていただきたいと思います。

以上です。

○松島和久委員長 ほかにございますか。

○深田ゆり子委員 8ページに病院事業会計全体の収支状況の報告が載っております。これを読みますと、新型コロナウイルス感染症の補助金が多くなったということと職員が増えたということ、それから、抗がん剤関係の高額薬剤が増えた。PCR検査などの委託料の増加などで令和3年度は4億6,601万円の黒字のところなんですが、今お話しした以外にも何か増えている理由というのはありますでしょうか。ここに書いてあるところだけですか。特に最初の新型コロナウイルス感染症対策の補助金というのが大きいと思うんですけども、内容的にはどうなんでしょうか。

○鈴木大紀事務部次長 新型コロナウイルス感染症関連の補助金ですが、いろんな種類の補助金があるので主なものだけ、主因のものだけちょっとお話をさせていただきます。

まず、空床補償ですね。これが年間で10億2,400万円いただいております。

続きまして、今度、残念なことですが2月の終わりから3月にかけて、令和3年度の、クラスターが発生しまして、それで、その補助金が5,000万円いただいております。

あとは細かいものですけども、地方創生臨時交付金ですとか病床回転率向上促進事業でやっぱり1,000万円ですね。あと、経費の中にも設備資金、昨年度、途中で御説明もいたしました、設備4事業という補助金がやはり4,300万円いただいております、経費をかけずにこちらの補助金で購入もさせていただいたということも相まって、今申し上げたものだけで11億2,600万円。真水のお金として、売上げを伸ばすとどうしても経費があれになります、そうするともうけは本当に少ないんですけども、これは純利益になりますので、そのところが非常に大きかったということを概要としてこちらに載せさせていただきました。

以上でございます。

○深田ゆり子委員 かなり空床補償の10億円というのはびっくりしましたけれども、そうしますと、そのためにほかのところはちょっと閉鎖になるよというふうになって、ほかの科の影響というのはなかったんでしょうか、減るとか。

○鈴木大紀事務部次長 やはり新型コロナウイルス感染症に特化してそれなりの病床の確保をしましたので、先ほど事務部長からも説明がありましたように、通常の入院収益、

根幹となるやはり病床利用率がどうしても下がります。ですから、そこは減収になっております。過去の、最近の年度で比較しましても、そこはどうしても制限をさせていただいたところもあるのは事実でございます。外来収益が、先ほどの抗がん剤等、あるいは、また、透析の患者さんも増えていることでプラス要因にはなっているんですが、いわゆる軽症の方々はやはり足が遠のいたということもあります。そのいろんな要因が相まっての数値ということになります。

○関 常司病院事業管理者 ちょっと補足です。

分かりやすく言うと、それまで80%、85%の病床稼働率が70%になっているんですが、八十五、六になると結構忙しくて、90%というとはほとんど満床に近い状況なんですね。今70%という数値は、1病棟潰していますので、新型コロナウイルス感染症用に潰しているんで、大体7%か8%プラスになっている。だから、実質70%というのは、実質の病床回転率でいくと78ぐらい。それでもまだ余裕はあるので、幸いというか不幸というか、患者さんが減っていますから1病棟潰しても何とかなつたと。この地域、やっぱり人口が少ないので、ちょっとした動向で減るとこれだけ減っちゃうんですね。島田も藤枝もみんな減っていますけれども。西部のほうは、浜松のほうは結構厳しくて、これだけ病棟を潰していると一般床が足りなくなっているという病院もあったようです。こちらの地域はやっぱり減っているんで、逆にいうと何とかなつた、そういうことだと思います。

○深田ゆり子委員 そうしますと、14、15ページの入院のところの比率、増減、右側のところにある三角のところが減っていますけれども、この58%の皮膚科とか、さっき1病棟潰したというお話がありましたけど、何科の病棟があれでしょうか。

○寺田浩己事務部長 一応具体的に言いますと、新型コロナウイルス感染症病棟として今使用している病棟は4A病棟という病棟です。もともと4A病棟は、眼科の患者さん、または婦人科の抗がん剤とかをする患者さん用として使用していた病棟となります。その患者さんは、今はほかの病棟に振り分けて診察をして、今現在、新型コロナウイルス感染症の病床として使っているというような状況となっております。

○深田ゆり子委員 分かりました。

○須崎 章副委員長 私のほうから、8ページの先ほど深田委員から御質疑があった収支の状況のほうの下から四、五行目ぐらいのところですね。また、必要な投資を進めた結果、減価償却費はちょっと増えているよということなんですけれども、必要な投資を進めた結果と書いてありますが、この必要な投資というのはどのような投資をしたのでしょうか。

○鈴木大紀事務部次長 いわゆる2年前、3年前のときにはダビンチですとか新型MRIですとか高額医療機器を導入したんですが、令和3年度につきましては、やはりそういう高額医療機器、大体一通りそろったものですから、そういうものではなくて、やはり新型コロナウイルス感染症関連の機器を必要な機器として投資をいたしました。

主なものを申し上げます。超音波画像診断装置、エコーですね。これ、2台で1,900万円、透析の機器を4台……。すみません、勘違いしていました。いわゆる増えているものです。ダビンチですね。その結果、減価償却費は令和3年度の投資ではなくて、ダビンチ。それと、生化学分注検査機、これが1億1,000万円かかっています。5年

の償却ですので、その高額医療機器ですとダビンチと生化学分注検査で4億円を超える機器もやはり5年で単純に8,000万円強。ただ、終わるものもあるものですから、それで増えた金額が4,864万円ということです。

申し訳ありません。勘違いいたしました。失礼しました。

○須崎 章副委員長 もう一つ、9ページの上段(2)の経営指標に関する事項ということで、令和3年度は経営コンサルティング業務委託をしまして経営改善の重点課題をまとめましたというふうになっているんですが、重点課題ってどのようなものですか。

○森下政安喜病院経営戦略課長 10の課題、ちょっと細かく順に申し上げられないんですけども、主なものとして入退院支援の関係の課題と、外来診療の関係の課題と、病床管理、入院の病床利用率とか病床管理の課題、手術室の稼働の課題ですね。あと、診療報酬の課題というようなことが主な課題として挙げられている。そこには職員の適正な配置ですとかそういったものもあるんですけども、主に先ほど申し上げた5つの課題について、特に今年度に入ってからなんですけれども、ワーキンググループを院内の中に設置して、今検討を進めている最中でございます。

以上です。

○須崎 章副委員長 やはりそういう課題というのは適切に審査していただいて進めていただければありがたいなと思います。

もう一点、29ページになります。委託料で、非常に前年度より検査業務委託が4,000万円ぐらいに増えているのかなというふうに思っているんですけども、この検査業務委託の増えた理由というか、そういうことはわかりますでしょうか。

○内藤 章診療技術部長 新型コロナウイルス感染症、これも関係しまして、新型コロナウイルス感染症検査につきましては3種類の検査を実施しております。1つが、いわゆる中部衛生検査所という外注センターに委託をしてPCRを実施する。そして、基本的には院内でやるものに関しましては抗原定量検査、もう一つ、院内でもPCR検査を実施することが可能です。全ての検査を院内で実施することは、技術的にちょっと数が多過ぎて不可能ですので、いわゆる入院する前に陰性を確認してから入ってくるという患者様につきましては外注のPCR、つまり、それが検査委託料という、院内でやる検査につきましてはこの中には入っておりません。先ほど示した試薬代とかというところに入ってきます。それで4,000万円という、非常にやっぱりこちらも高額な費用になっております。ただし、これもお金を全ていただいております、これで赤になるというようなことはございません。

以上です。

○須崎 章副委員長 了解です。

○松島和久委員長 ほかにございますか。

○石原孝之委員 19ページの給与費の明細に関してなんですが、ちょうど令和3年度中も来月の10月1日の給与、最低賃金の見直しも全体にあたりとかします。その辺に関しては、給与の何か変わったりとか、そういう点はない、もう一回決めた中で、昨年度もそうだったんですけど、人事考課だったり、その辺も考えての予算づけだったり、この辺はどうでしょうか。

○鈴木 彰病院総務課長 当初予算を組み立てるときには職員の勤務状況とか、そういつ



たところでも考えているところでございますけれども、またこの10月1日からですかね、看護職員の処遇改善の評価料というのが新たに、今まで4月からは看護職員1%ということで、4,000円相当の賃上げをとということで上げてございます。その分は国のほうからの補助金で賄われているわけなんですけれども、この10月1日からは保険点数で収入を得た中で看護職員の給与を上げるということで、4月から1%だったんですけれども、この10月からは3%という形で、約1万2,000円の賃上げにつながってくる、そういうような制度で、そちらを当院のほうでも採用していくような状況です。そこが一番大きな賃上げにつながってくるのかなと思います。

以上でございます。

- 石原孝之委員 処遇改善の話は国から下りてくるやつだし、それで賃上げにつながっているというのはいいことですが、先ほど言った、大体それを見定めてあるということですよ、最低賃金で、大体底上げで、全体が変わるのかなって、バランスがって思ったんですけど、そこら辺は特に変わらずに。
- 鈴木 彰病院総務課長 そうです、そこは。
- 内田修司委員 決算のこと、決算のときにかかった分、もう終わったことをやっている。来年の話じゃないの、これ。決算だから。
- 深田ゆり子委員 10ページの職種別職員数が書いてございます。お医者さんが増減で7人増えて、機能訓練士も2人増えています。看護師さんも7人増えています。主に多い人数は気になったけど、どの科が増えたのでしょうか。この右側の11ページの診療科別医師数は、これは一応昨年度、3月31日ですけども、ここに反映されているのでしょうか。
- 鈴木 彰病院総務課長 医師数でございますけれども、医局人事で数を出す時点で、一時的に医師が減っていたり一時的に増えていたりという出入りがあるものですから一概には言えないんですけども、この7人のうちの3名が形成外科に常勤の医師が東大のほうから派遣をいただきまして……。
- 関 常司病院事業管理者 浜松医大。
- 鈴木 彰病院総務課長 ごめんなさい。浜松医大のほうから常勤の医師3名がこの年に来ていただきました。以前もちょっとお話しさせていただいたかもしれないんですけども、それまでは形成外科、一時的に常勤医師がいないのが二、三年続きまして、その間は外来のほう、非常勤の先生に来ていただいてやっておりました。ただ、なかなか焼津市、水産加工が盛んな町で、指の切断なんかやはりある。ちょっと前に、私、形成外科の先生に聞いたときには、焼津はやっぱりほかの町と比べてそういう事故が多いねということのを伺いましたけれども、ただ切ってしまうとそのまま処置をするだけならそんなに大きな手術にはならないんですけども、それをまた再接着するとなると、やはり常勤の形成外科の先生が長い時間をかけて手術をしなければなりませんので、そういった意味では、この年、3名来ていただいたのは非常に大きかったのかなと思っております。
- 深田ゆり子委員 一気に。
- 鈴木 彰病院総務課長 はい。

以上でございます。

- 深田ゆり子委員 7名のうち3名が形成外科。
- 鈴木 彰病院総務課長 そうですね。あとは、例えば消化器内科が1名増えたり脳神経内科の医師が2名増えたり、あるいは、逆に外科の医師が1名減ったり産婦人科の医師が1名減ったりというような、いろいろな一時的な増減があるというような状況でございます。
- 深田ゆり子委員 分かりました。
- あと、看護師のほうはどここの科に増やしたとかというのはあるのでしょうか。7名増員になっています。
- 鈴木 彰病院総務課長 看護師は毎年やはり途中で辞められる看護師さんというのが数多くおられまして、ある程度その数を見越して採用なんかをしているところがございます。
- あと、今まで当院のほうもなかなか看護師さんを採用したくても十分な応募がなくて、必要な数、採用できていなかったのが何年か続いておったんですけれども、ここにきて大分、常葉大学の看護学部でも80人か90人、看護師さんを輩出していただけるようになりまして、比較的最近は多くの看護師さん、募集いただけるようになってございます。そういう看護師さんを配置となると、看護部長、何かその辺でよろしいですか。
- 山梨美鈴看護部長 どこにということをちょっと明確にはお答えできないんですけど、とても流動的だということはお伝えしたいかと思えます。辞める部署、病気休暇を取る人、産休・育休に入る人、そういったところに当てていくというような配置の仕方をしていきますので、ここをというところは、特に今は今のところはないです。救急外来には少しずつ、半日ぐらいずつの正規職員ですけれども、部分休業であるとか育児短時間休業であるとか、そういったものを増やしているのは、そこは確かです。あと、外来も少しずつ増やしています。よろしいでしょうか。
- 深田ゆり子委員 分かりました。いいです。
- 松島和久委員長 他にございますか。
- 池谷和正委員 すみません、1つだけお伺いします。
- 決算なので金額というところなんですけど、それはもう皆さんに聞いてもらったのであれなんですけど、一応自分たちが今回この決算書を見させてもらう中で、感覚的ですけどイレギュラーというか、特別な期間、この2年間過ごしてきた中で、病院事業者の皆さんが苦勞されてきたとか、様々な意見も聞いてきました。私たち18期がこの年度で終わります。今年いっぱい終わって選挙になるものですから、次、新しい委員会にまた申し送りを今後していくんですけど、実はもうアフターコロナの話が世間一般ではどんどん進んでいて、次の新しい委員会の人たちはまた新しい数字と、今、この令和4年度の数字を見比べながら決算に入っていくと思うんですけど、今後、焼津市立病院、特にこの頃、救急車で運ばれたような患者さんの家族の皆さんから、すごい丁寧な対応をしていただいて感謝ですという電話をいただいたりとか、市立病院を応援したいというそういう声もよく聞かれるものですから、ぜひ、次また令和4年度の決算とはまた別なんですけど、今後、アフターコロナに向けて、強みである部分での持っていく方というんですかね、営業という言い方が正しいかどうか分からないんですけど、そこを最後に聞かせていただいて終わりにしたいと思いますので、よろしくお願ひします。答えられ

る範囲でいいので、展望というか、そういうのでいいですよ。

- 関 常司病院事業管理者 なかなか難しいので、全般的なことに関して言えば、それこそコンサルも入れて、今まではっきり言うてうちの病院はあまり営業活動をやっていたので、それは去年ぐらいから、いわゆるお得意様のところに回るということをやらせていただいています。

もう一つは、周産期がどうしても、お産が減っているんですね。うちは周産期、かなり強いので。それをいろいろ分析すると、1つはお産を控えている、出産というか、妊娠を控えているというのが1つと、もう一つは、里帰りしないと。だから、東京の大病院は増えているんです、むしろ分娩が。ほかの科が全部減っているんだけど、うちの科だけ増えて、どうしたんですかと言われて、里帰りしないで都会で産んでいるんですよ。だから、そういうものをもう少し引き入れようということで、例えば、今、お産はお金が別なので、祝い膳というのをやっているんですけども、それをもっと拡充して、言っちゃっていいのかな、ホテルのあそこのグランドと松風閣の料理長にも監修してもらって、そういうような祝い膳を出そうというプロジェクトをやったりとか、あとは、今、不妊治療、今までやっていたので、それも今までどおり、今度それが自由診療から保険診療になるということをPRしていますし、将来的には無痛分娩のほうもやりたいなということで、そういうようなことはやっています、個別のことに関しては。

全体的にはやっぱり患者さんに来てもらわなくちゃいけないので、ただ、要するに世の中これだけ受診控えのムードになっちゃっているんで、どこまで戻るかというのは非常に不透明なんですよ。その辺が非常に難しいところかなと思っています。よろしいでしょうか。

- 池谷和正委員 ありがとうございます。

特色あるってよく皆さん、いろんな部署で言うんですけど、まさに病院なんかも今選んでもらうし選ばれるしというところで、一番大事なときを迎えているのかなと思いますけど、一番大事なのはそこで働いている皆さんのことも僕らは心配しているものですから、ぜひまた来年度、いい結果になるように期待しておりますので、頑張ってください。

- 松島和久委員長 ほかにはないようですので、質疑・意見を打ち切ります。

討論ありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

- 松島和久委員長 討論を打ち切ります。

これより採決いたします。

認第20号は、これを認定することに賛成の委員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

- 松島和久委員長 挙手総員であります。よって、認第20号は、認定すべきものと決定いたしました。

以上で、市立総合病院所管の議案の審査は終わりました。

当局の皆様、御苦労さまでした。

これで、総務文教常任委員会に付託されました議案の審査は全て終了いたしました。

以上をもちまして、総務文教常任委員会を閉会いたします。皆様、御苦労さまでした。

閉会（13：56）